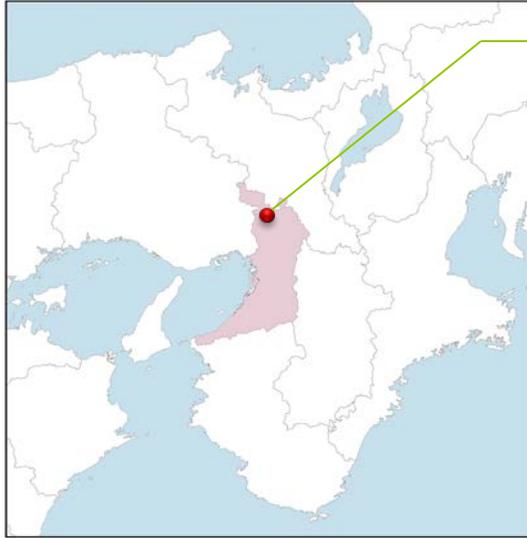


ICTを通じた 地域と教育の再生事業



大阪府箕面市

大阪府箕面市の概要



大阪府箕面市

大阪北部に位置する、人口約13万人の緑豊かな住宅都市

市内に「明治の森国定公園」があり、
名瀑「箕面の滝」は関西の奥座敷と言われる紅葉の名所

市街地から山並みを望む

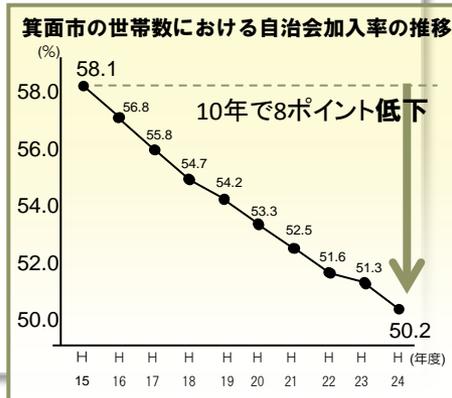


課題1

地域コミュニティ力

大阪のベッドタウンとして人口増加傾向を維持する一方、**地域コミュニティ力の低下**が進んでいる。

- 自治会離れ
- 地域団体間のつながりの希薄化



課題2

教育改革

“子育てしやすさ日本一”を掲げて6年目、子育て世代の流入促進に成果を上げてきた。

本丸たる「**教育改革**」は、始まったばかり。

- 「箕面子どもステップアップ調査」を平成24年度から開始
（全小中学生を対象に、学力・体力調査等を実施する）
- 教育委員を公募し、“保護者中心の委員構成”で平成25年度からスタート

箕面市では、
様々な地域活動が
今も続けられている

これらの地域力を
教育を基軸に再結成

このつながりに ICT を活用

ICTを活用した学校教育①

タブレットPCの教育への活用

【授業の外では】基礎知識を事前学習

- 家庭環境差や通塾による格差の解消
- 英語の発音やコミュニケーション練習
- 漢字や計算等反復学習



予習・
自主学习

復習・
調べ学習

【授業では】論議・討論・提案

- 効果的で効率的な協働学習
- 思考力・判断力・表現力の向上



タブレットでこんな授業も

動画機能を使った体育の授業

縄跳びを跳んでいる姿をクラスメートにムービー撮影してもらい、自分の跳び方を確認！
どうすればうまく跳べるかをみんなで分析

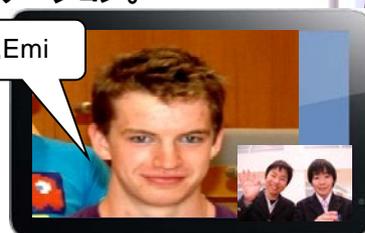


テレビ電話機能で国際交流

テレビ電話機能を使い、外国人と顔を見ながらのコミュニケーション。

Hi, Emi

Hello, Tom.



ICTを活用した学校教育②

タブレットと電子黒板で授業が変わる。

これまでの授業では

- 手を挙げた児童・生徒が黒板に答えを書いている間は授業がストップしていたが...

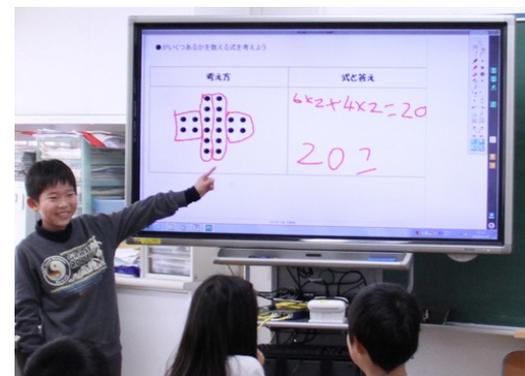
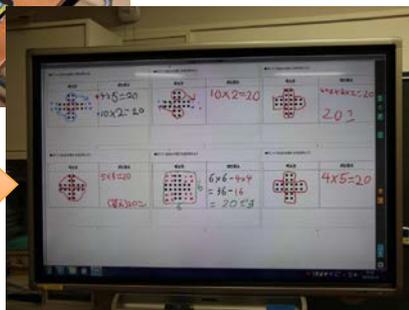


タブレット・電子黒板を活用すると

- タブレットに書いた答えが瞬時に電子黒板に表示されるので、授業の流れが止まらない。
- それぞれの答えを映し出し、意見交換へ



瞬時に表示



その結果

授業時間を効率的に使えるので

- ・子どもたちが自らの考えを発表する時間を多く確保できる。
- ・クラス全体で問題に取り組んだり、意見交換する機会が増え、個々の考えが深まる。

【ICT街づくり推進事業での実証における導入実績】

■第三中学校

- 短焦点プロジェクター＋無線LAN 17台
- 移動式60型電子黒板＋無線LAN 6台
- 生徒用タブレット1学年40台 120台
- 教員用タブレット 4台
- 充電収納庫 4台

■彩都の丘学園

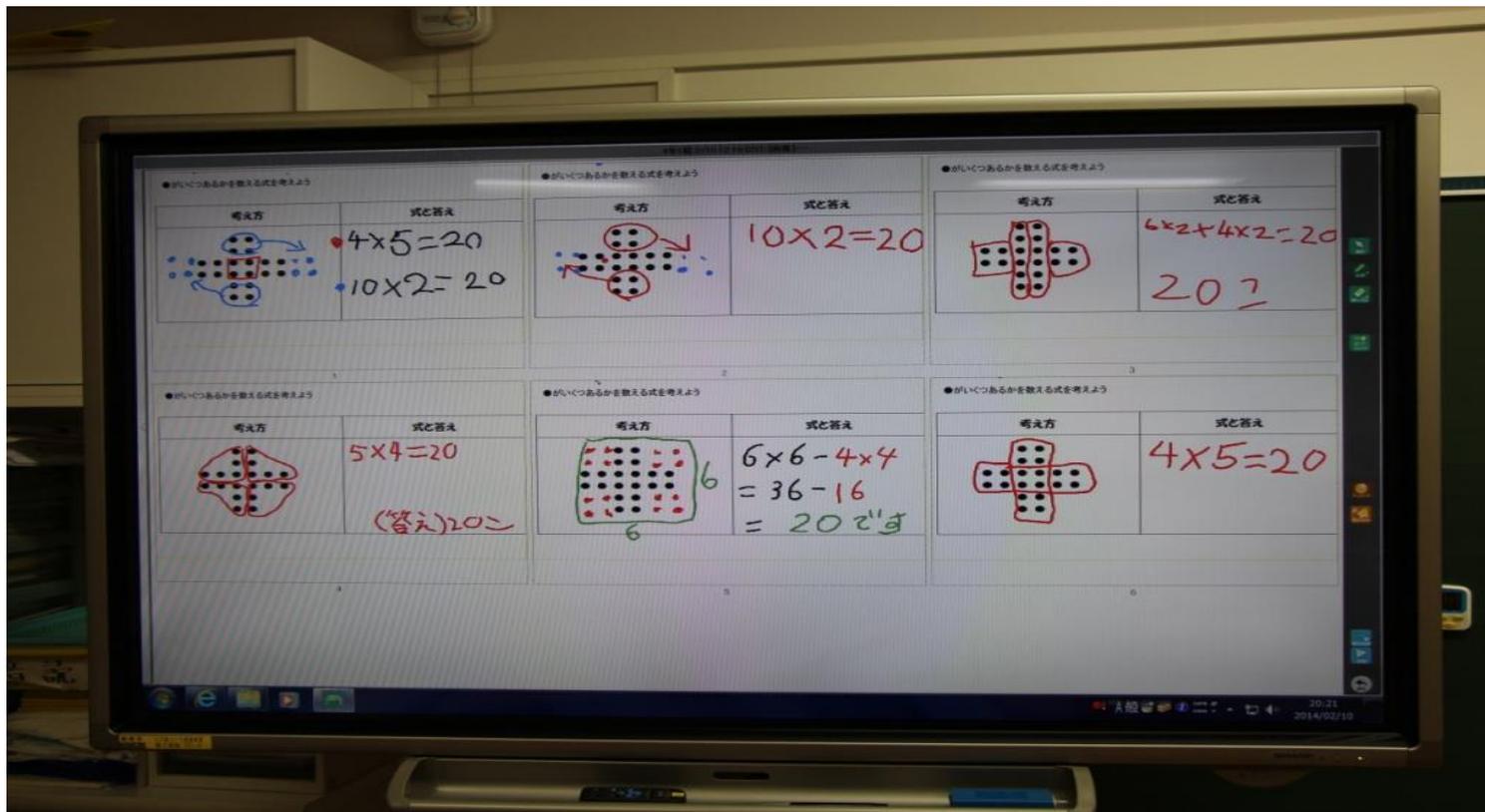
- 60型電子黒板＋無線LAN 28台
- 児童生徒用タブレット 350台
- 教員用タブレット 16台
- 充電収納庫 11台

【共通】

- 授業支援ソフト スタディネット(Sharp製)
- デジタル教科書

ICTを活用した学校教育③

児童の答えを電子黒板に表示



課題

- ・有害サイトへのフィルター設定など安全安心な教育環境
- ・ICTを活用した有効な指導方法の確立

今後は...

- ・今回の実証実験の結果も踏まえて、平成26・27年度で全小中学校の児童・生徒のタブレット、全教室の電子黒板の設置を計画しています。
- ・授業のバリエーションを増やし、みんなが参加でき、一緒に考え、解決する授業を進めていきます。

地域力を生かした危険箇所点検

箕面市では、地域コミュニティ力が低下してきてはいるが、様々な地域活動が長く継続されている

地域住民による危険箇所点検

年に1回、地域住民が自らの地域の危険箇所を点検し、市に改善要望を提出

- 小学校区ごとの青少年指導員連絡協議会が主催
- 保護者を中心に、地域住民が参加
- 昭和57年から30年以上の活動実績
- 毎年、約600カ所の改善要望

過去5年の実績

実施年度	要望箇所
平成20年度	749か所
平成21年度	558か所
平成22年度	497か所
平成23年度	543か所
平成24年度	639か所

* 現在は紙媒体で管理されている
* 優先順位を付けて改善しているが、
予算上の制約もあり追いついていない

ICTにより

今回の事業では、危険箇所情報を集めるスマホアプリを作成、危険箇所のデータを管理し、子どもたちが「自分の通学路の危険箇所」としてリアルタイムに確認できるシステムを構築する。



危険箇所CHECKERによる通学路等の安全点検

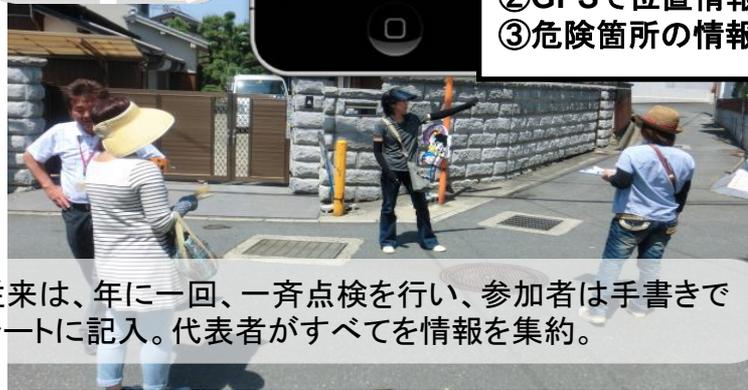
地域で続けられてきた青少年指導員らによる危険箇所点検をICTにより効率化

スマートフォンアプリの活用



市役所への情報提供

- ①危険箇所の写真を撮影
- ②GPSで位置情報取得
- ③危険箇所の情報を入力



従来は、年に一回、一斉点検を行い、参加者は手書きでシートに記入。代表者がすべてを情報を集約。

箕面市役所HP



危険箇所の情報をコメント付きで表示



タブレットやパソコン上でいつでも確認が可能

子ども達が自ら通学路の危険箇所を確認。
地域の人による児童・生徒の見守りに活用。

地域の力

青少年指導員連絡協議会などによる危険箇所点検結果の約600件の危険箇所情報を収集、危険箇所点検以外に日常の情報提供を含めると約1,000件の情報に上る。

課題

- ・危険箇所点検のアプリを使用できるのが、スマートフォンの所有者に限られるため、地域で危険箇所点検を行う際には、参加者のグループ分けに工夫が必要。

箕面市とハット市の国際交流

市民団体発・ニュージーランドとの交流

市民団体同士から始まったニュージーランド・ハット市との国際交流。子ども達の交流も活発

- 平成5年から**20年の活動実績**
- 市民団体間の交流を追認する形で、平成7年に箕面市-ハット市間で国際交流都市提携
- 両都市併せてのべ1,092人が相互訪問
- 子どもたちの交流も継続的に実施



活動内容	のべ人数
青少年交流	45人
中学生海外体験交流	307人
高校生派遣など	104人

* 現在は青少年交流、中学生海外体験交流などの予算措置を休止中。(より事業効果が高い交流手法を模索するため)

ICTにより

ニュージーランドは、時差3時間の英語圏

デジタルサイネージの“窓”を学校に設けることで、より多くの子どもたちがリアルタイムに交流できる。

ICTを活用した国際交流

日本とニュージーランドをつなぐ“窓”を作り、国際交流を促進

デジタルサイネージの活用

地域の力

市民団体である、箕面市ハット市友好クラブ（箕面市）、ハット箕面友好クラブ（ハット市）がコーディネート

日本との時差が少ないハット市（ニュージーランド）とデジタルサイネージ等を活用して、あたかも「一枚の窓」でつながっているような状況を作り出し、**日常的な交流を通して、“活かした英語力”や国際性を醸成する。**

箕面市の学校等



市立とどろみの森学園
市立彩都の丘学園
多文化交流センター
に設置

ハット市の学校等



市立Epuni School
市立Tui Gren School
War Memorial Library
(ハット市が独自に設置)

箕面市とハット市は
約9,000km以上の距離
しかし、時差は3時間
従って、ICTを活用して
日常的に交流が可能！

- ・クラスルーム接続ではできない「生」のコミュニケーションが子どもたちの英語力を飛躍的に伸ばす。
- ・小中一貫校に導入することにより、中学生のサポートで小学生も低学年からコミュニケーションにチャレンジ！
- ・「窓」の向こうに興味を持ち、現地に行って交流し、さらにその生徒から刺激を受け、他の生徒にも効果が波及。

課題

・今後のさらなる有効活用に向けた取組の検討していくことが必要

ICTを活用した国際交流

市立彩都の丘学園での交流の様子



子ども達を基軸にした地域力の再結集

地域の活動で集められた情報を、随時、サーバー上に蓄積。子どもたち一人一台のタブレットPCから、共通IDによるシングルサインオンにより、複数のアプリケーションを一人ひとりの学年・地域にあわせて活用できるICTシステムを構築します。

子どもの教育に溶け込む地域アーカイブ

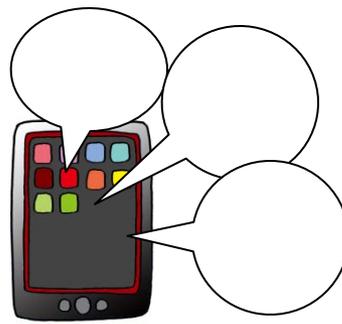
朝起きたら
シングルサインオン



通学時には、自分だけの
危険個所をチェック



授業中は個々人に合った
地域教材をゲット



休み時間は
ニュージーランドの
友達発見！



それを支える
地域力

点検結果の反映

アーカイブの製作

交流のコーディネート

“役に立っている”という実感で、力が再結集していく

子ども達を基軸に、地域力を底上げする仕組みを構築

期待される効果

教育改革の推進

- タブレットや電子黒板を活用した双方向の授業を実施することで、授業に関する**理解力**や自分の考えを示す**表現力**、また自分の学習履歴の閲覧による**自己管理能力の向上**を図ります。
- 学校に設置されたデジタルサイネージによって、日常的に外国人(英語圏)と同一環境にいるような状況を作り出すことで、“**活きた**”**英語力の向上**や**国際性**を養います。
- これらにより、**箕面の教育力を再構築し、箕面に住む子どもたちの成長**を図ります。

地域コミュニティ力の向上

- 今後、地域の団体にも積極的に協力していただき、
 - ・地域のことを学べるコンテンツの提供
 - ・危険箇所点検を実施し、通学路を含む地域における用心すべき場所の情報を提供することを通じて、「**社会の宝**」である子どもたちを「**地域で守り、育てる**」との意識が醸成され、子ども達を基軸とした、**地域力の底上げ**につながります。

市民の安全の確保

- 市民から寄せられた危険箇所情報を効率的に集め、インターネット上で公表することにより、**生徒・児童の意識の醸成、保護者、地域の方による見守り**を強化します。
- 学校などに設置されたデジタルサイネージは、**災害時における通信手段、情報提供手段**として活用します。